

乳がん市民公開講座 ～10年を振り返って～

札幌市医師会
小笠原記念外来プラザ

田口 和典

2007年より10年間にわたり乳がん市民公開講座を継続開催してきました。きっかけは、2006年11月に乳がんで亡くなったある患者さんです。医療従事者であったこの方は、最後の入院をされた時に「多くの女性が乳がんを理解し、自分のように乳がんで命を失わないようにしてもらいたい。私の死後には解剖して新しい治療のために役立ててほしい。でも、顔だけはメスを入れないでくださいね」とおっしゃり、思わず胸が熱くなりました。ご家族とも相談して剖検は行わなかったのですが、ご遺志を継いで乳がんの啓発活動として講演を始めるようになりました。また、乳がんの基礎知識から診断・治療まで平易に解説した小冊子「乳がんの理解を深めるために」5,000部を発行して一般市民や乳がん患者の皆さんに配布してきました。

この10年間で行った講演会は小さな会も含めると50回以上になり、作成したスライドは2,000枚を超えました。テーマは「乳がんの疫学」「検診」「診断」「手術」「薬物治療」「副作用対策」「抗がん剤投与中の食事の工夫」「再発乳がん」「マギーズセンター」「緩和医療」「乳房の良性疾患」などなど多岐にわたり、最近では「遺伝性乳がん」や「乳房再建」をテーマにする機会も増えました。1回の参加者はだいたい100～200名ですが、大きな会場で行った時には600名の方が聴講されたこともあります。乳がん治療の方も多数みえますが、皆さんに共通するのは「よい治療を受けたい。自分の病気をもっと理解したい」という強い思いです。ご自分の主治医を充分信頼した上で、あらためてご自身の病状を確認するためにいらっしゃる方も多いため、講演を通じて主治医の先生のサポートにつながるような内容になることを心がけています。「再発乳がん」がテーマの時は特に大人数になり、男性が多いのも特徴です。これは闘病中のご本人に代わり、ご主人や息子さんが来場するからです。再発乳がん治療に難渋する症例が多いのは昔も今も変わりませんが、少しでも前向きに治療を受けていただけるよう、国内外の最新情報とともに北海道がんセンター乳腺外科や北大病院第一外科で経験した治療奏効例の画像を多く提示するようにしています。講演時間は平均2時間と長いので、リラックスして聴いていただくために自作のイラストや時には漫画による説明を加え、講演終了後の復習のためにハンドアウトと講演内容を補足するテーマ別の詳細な解説書も配布しています。

会場では懐かしい患者さんに再会することもあります。ある時、私が手術した方とその娘さんに20数年ぶりにお会いしました。再発なく元気に過ごされていること、入院していた頃に小学生だった娘さんが、最近乳がんで手術を受けたことを教えてくれました。当時、「娘も乳がんにならないか心配なの」とおっしゃっていたので、「乳がんのリスクが少し高い可能性があるので、若い時からのセルフチェックと乳がん検診受診が大切」とお話をした記憶があります。娘さんは、アドバイスを守りつづけて極早期の段階で乳がんと診断されたそうです。

10年間を目処に2007年にスタートした講演会ですが、患者さんが逝去されてちょうど10年目の2016年11月、「乳がんから身を守るための基礎知識」を開催して一区切りとしました。この会には全道各地から157名の方々が集まり、活発な質疑応答が行われました。いま、講演の度に集計したアンケートの感想欄をあらためて読み返してみると、病院の診察室では決して知ることのできない女性の乳がんに対するさまざまな思いが綴られており、私自身が多くのことを学ばせていただいたような気がします。



講演会場の様子

